

「町長室」出前懇談会

町の課題を知り、みんなで解決策を考えよう



来岸

- 自己決定・自己責任 -

地方分権時代の

問われる自治体

“3つの力”

- 自治力・財力・行政力 -

2月12日から2月18日まで、町内9会場で、累積赤字解消後の当町の3つの共通課題「①健全財政の維持」「②公共・行政サービス水準の維持向上」「③地域の活性化」の両立を目指した町づくりの重要性への理解を深め、みんなでその克服や解決の方策を考える「町長室」出前懇談会が開かれ、延べ124名の町民の皆さんに参加いただきました。

今回は、『町の財政状況』、『急がれる4つの課題の取組状況』、『家庭ごみの分別等』をテーマに、町長や担当課長から資料により説明があり、活発な質疑や意見が出されました。

1 町の財政状況

①健全財政の維持

10億4,600万円もの多額の累積赤字を抱えた当時の反省から、「赤字」と「借金」の違い、地方債（借金）の残高、有利な借金の種類と活用割合、基金（貯金）積立残高の推移や他町村との比較、地方交付税の急激な減少の影響、

一般会計から特別会計への赤字補填の状況などを紹介。

②公共・行政サービス水準の維持向上

近隣町村との上下水道料金などの町民負担の比較のほか、財政難で途上・未着手となっている町民サービスの施策例の紹介など。

③地域の活性化

まちの活性化のための主要事業の取組状況を紹介。

2 急がれる4つの課題の取組状況

『簡易水道料金の引上げ』、

『下水道使用料の引上げ』、『町営牧場の見直し』の課題と対策について、『岬の湯しゃやたんの民営化（4ページ参照）』への約1年間の取組状況について、それぞれ説明を行いました。

3 家庭ごみの分別等

町のごみの分別と減量化の必要性、ごみ処理に係る費用と町民負担、粗大ごみ（大型ごみ）の処理方法、生ごみの水切りやペットボトルのラベルはがしのお願など。

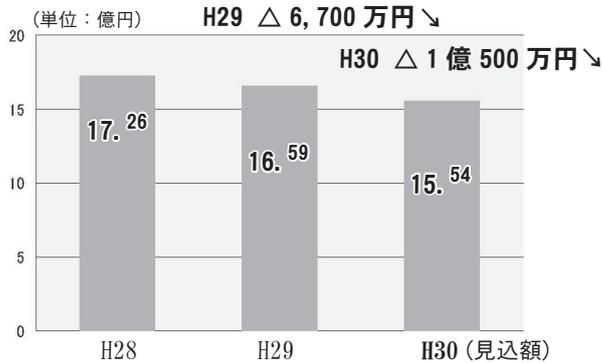
月日	会場	対象地区	参加人数
2月12日	野塚地区ふれあい交流館	野塚町	21名
2月13日	幌武意老人寿の家	幌武意町	13名
	入舸会館	入舸町	12名
2月14日	来岸会館	来岸町 西河町	13名
	日司生活改善センター	日司町	20名
2月15日	総合文化センター	美国町	13名
	婦美会館	婦美町 丸山	4名
2月18日	神岬会館	神岬町	11名
	余別地区コミュニティセンター	余別町	17名
5日間	9会場	11地区	124名

※参加人数は議員を含む

～町民の素朴な疑問【町の台所事情】に答えて！～

■ 知ってください / 考えてください <比較：29年度決算>

・ 地方交付税減少の大きさと影響



2年間で **1億7,200万円** 減



これは、平成29年度の
すべての町税収入 (町民税、固定資産税、たばこ税ほか)
1億7,267万円と、ほぼ同額!

<地方交付税の用途>

(単位：百万円)

	地方交付税	比較	主な用途経費 (①+②+③+④+⑤)	過不足額
H 28	1,726	<	1,758	△ 32
H 29	1,659	<	1,786	△ 127
H 30 (見込額)	1,554	<	1,748	△ 194

地方交付税は、①人件費、②扶助費 (医療費等)、③公債費 (借入金償還費)、④補助費等 (消防組合の負担金等)、⑤特別会計繰出金の義務的・固定的な支出だけで使われてしまっている厳しい状況が続いています。

■ 貯金 (基金) が 14 億円もある?

積丹町の貯金残高：14 億 1,500 万円

①後志 19 町村中 18 位 全道 179 市町村中 174 位

②一般家庭の普通預金：3 億円 特定の目的にしか使えない貯金：11 億円

・ 財政調整基金

・ 減債基金 (借金に備える)

・ 備荒資金 (非常時災害に備える)

・ 地域情報通信基盤施設整備基金 (IP 設備更新) など 14 の基金

■ 財政が厳しいのに、なぜ毎年こんなしごとができる?

・ 現金がなくても「できるしごと」のしくみ

【H 29 の事業例】

事業名	総事業費	財 源 の 内 訳		
		国・道補助金	地方債 (借金)	一般財源 (現金) (町民税・地方交付税等)
①多茂木団地建設事業	1 億 1,052 万円	5,108 万円	5,920 万円	24 万円
②憩の広場整備事業	3,304 万円	—	3,290 万円	14 万円
③島武意通り線道路改良事業	2,808 万円	1,878 万円	920 万円	10 万円

(注) ①：公営住宅建設事業債 (借金) を使い、22 年間で返済。地方交付税措置なし。

②：過疎対策事業債 (借金) を使い、12 年間で返済。毎年の元利償還金のうち、地方交付税で 7 割措置されるため、町の支出は実質 3 割。

③：辺地対策事業債 (借金) を使い、12 年間で返済。毎年の元利償還金のうち、地方交付税で 8 割措置されるため、町の支出は実質 2 割。

・ 現金がないと「できないしごと」

人件費、行政事務費、町道の除雪費、
ごみ収集費、教育費、福祉・保健費など



現金収入 (町税収入・地方交付税など)
がないとできません!

岬の湯しゃこたん「公営」から「民営」へ 民営化方針（案）固まる <建物“売却”、敷地“無償貸付”>

<これまでの経過>

岬の湯しゃこたんは、平成14年1月に町の直営施設としてオープン。町民の健康増進、雇用機会の創出、地域経済への貢献、温泉の観光資源化など、町営温泉としての大切な役割を担ってきました。

オープン当時は約18万3千人の利用がありましたが、平成24年度以降は概ね8万人程度に減少し、また経営収支は、当時から一般会計からの赤字補填が続いてきましたが、平成25年度末で施設建設時の公債費（過疎対策債）の償還が完了し、収支の改善が期待されてきました。

しかし、その後も毎年約3千万円超の赤字が続き、このままでは町全体の財政運営への影響が更に大きくなることが予想されるため、これまで議会の町政報告や予算、決算の審議の過程で経営収支の厳しい状況を報告する一方で、平成29年11月の議会全員協議会では、改善に向けた方策についての具体的な検討審議を要請し、去る2月19日までの間に5回にわたり、産業建設常任委員会の所管事務調査事項として審議されてきました。またこの間、町の産業経済団体で構成する積丹町地域活性化協議会や町民の声を直接伺う「町長室」出前懇談会等において経営の状況を説明してきました。

過日の懇談会では反対の意見はありませんでしたが、今後も民間事業者の募集公告までの間の様々な機会に、町民の皆さんのご理解をいただくことに努めてまいります。

<現状と課題>

【現状】

- ・ 町内から13名を雇用
- ・ 町内店舗からは約2,326万円を購入
- ・ 入湯税は年約1,115万円を支払い

【課題】

- ・ H29年度赤字額 3,219万円
(固定資産税収入の2分の1相当)
- ・ H29年度までの一般会計からの赤字補填は総額2億9,500万円
- ・ 今後、老朽化による大規模改修が必要
- ・ 平成32年の法改正により、臨時職員の人件費の増高が見込まれる

<民営化の方法>

- ・ 「民間譲渡」と「指定管理者制度」の2つの民営化方法を検討した結果、売却価格の高さだけでなく、事業の持続性や地域活性化への貢献意欲など民間事業者の提案内容を評価する「公募型プロポーザル方式」による民間譲渡方式を採用し、民間事業者の選定経緯の透明性と公平性の確保を図ることにしました。

<町が期待する事業者と今後の予定>

【主な公募条件】

- ①国内に本店を有する法人
- ②建物（附属設備を含む）：有償譲渡、ただし最低売却価格設定なし（参考価格：1億4,500万円）
- ③温泉源施設・温泉利用権：無償譲渡
- ④備品・厨房用品：無償譲渡
- ⑤建物敷地（道路・駐車場を除く土地）：30年間無償貸付（更新可）
- ⑥その他：10年以上継続、第三者への譲渡制限等
- ⑦事業者への要望：地元雇用や町内購買、自然環境・景観への配慮、観光業や住民活動等への協力・支援、町内産業経済団体等との協調・連携 など

【スケジュール（目標）】

- 平成31年（2019年） 3月 募集公告 7月 選定委員会、優先交渉権者決定、仮契約
9月 定例町議会、売買・無償貸付議決 10月 本契約締結
- 平成32年（2020年） 1月 引継ぎ期間 4月 譲受者の営業開始